

一般質問

・原発特措法期間延長に伴う、  
原発事故避難道路整備について



齋藤 洋

**問** 原発特措法を活用した過去20年間の実績について

**答** 原発特措法におけるインフラ整備支援は、国の補助率を50%から55%にかさ上げすると共に地方債への交付税措置により、市の実質負担を13・5%にするものです。過去20年間では、平成19年度に御前崎中学校体育館、令和元年度から今年度にかけて浜岡中学校校舎の建設をしておりません。なお、市道整備の実績はありません。

**問** 原発特措法も3期目を迎えることになるが、これを活用した避難道路整備の施策について

**答** 原子力災害における主な避難道路は、県道や国道、高速自動車道を考えております。現時点においては、原発特措法を活用し、緊急に整備しなければならない市道はないものと考えております。

**問** 原発事故時、御前崎地区6町内会及び白羽地区4町内会住民は、県道241号線（薄原地頭方線）を利用して国道150号線バイパス経由国道473号線を利用することになるが、牧之原市内の2カ所で、交通渋滞に巻き込まれる可能性が高い。このため、平成30年8月に当時の白羽地区町内会長6名が市及び市議会に要望した、「市道7019号線・7018号線、通称茶工場前道路の拡幅直線化整備及び7018号線と7133号線、通称白羽工業団地道路との直通化」が必要と考えるが、いかがか

**答** 市道整備に活用することは難しいと考えますが、御前崎市に県道・国道も走っており、ですので、引き続き県・国に要望していきたいと考えます。

一般質問

・市政5年間の検証・総括は



渥美昌裕

**問** 市政5年間の自己評価、検証、総括を伺う

**答** 「子育て応援手当」の支給、「子ども医療費」の完全無償化、令和2年度からは「給食費無償化」に取り組んでいます。園、学校、家庭、地域が連携しスラム御前崎として、人づくりを行ってきました。浜岡中学校新校舎、新学校給食センターの建設。東遠学園内に、こども発達センターの設置計画の推進。医療の充実では、過去5年で、4件の診療所開設。介護の充実では、市内7地区へ協議体設置。2箇所目となる地域包括支援センターを支所へ設置。自然災害に対して、避難施設の設定、防災訓練の充実など、ハード・ソフト両面の対策強化に努めました。原子力災害については、引き続き御前崎市原子力災害広域避難計画の実効性を高め、市民の安全確保に努めます。産業振興では、御前崎港に企業進出が実現し、現在建設工事が始まり、交流人口の拡大では、灯台周

辺の整備が完了し、3年度に「灯台ワールドサミット」を開催します。厳しい財政状況の中、公共施設の維持管理費用が財政を圧迫しています。今後も公共施設マネジメントを重点的に進め、次世代に負担を掛けない運営を行ってまいります。やりきれない事業もあります。原因を分析し、公約に向けて全力を尽くしてまいります。また新型コロナウイルス感染症対策、デジタル化に向けた環境整備など、新たな課題も発生してきますので、その都度、的確に対応してまいります。

